

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.43

先日行われた「三年生を送る会」。この困難な状況の中、後輩の皆さんの温かい思いにあふれた、素敵な会が開かれました。「小さな学校」白井中。だからこそ、「大きな愛」。三年生一同、改めて、「白井中でよかったなあ〜。」と心の底から思える一日でした。そこで、今日は、たくさんの「愛」であふれた本を絵本を中心に紹介します。

『そらまめくんのベッド』 なかや みわ

「そらまめくんの たからものは このベッド。くものようにふわふわで、わたのように やわらかい。」そらまめくんは、こんなベッドが、大のお気に入りです。貸して！と誰に言われても、絶対貸そうとしません。ところがある日、この大事なベッドが行方不明になってしまいます。さあ、大変！貸してもらえなかった他の「豆」たちも気の毒がって探します…。さあ、そらまめくんのベッドはどうなったでしょう？ぜひ、読んでみてね！



『雨のアト』 深町 なか

「ああ、今日も雨ばかり…。」そう思って、水たまりに映った自分の顔を見ていると、その傘越しの空に大きな虹。うつむいてばかりで、気づけなかった小さな幸せに気づかせてくれる、そんなやさやかな言葉が、素敵なイラストとともに描かれている1冊です。中から、少し紹介します。～With my family～から。「ずーっとニヤニヤできてしまう天使の誘惑」「キミの元気が余計なものを吹き飛ばしてくれる」「こうやって笑顔いっぱい私のこと育ててくれたんだらうな」「うたた寝中、ほのかな温もりをすぐそばに感じる」「この笑顔を守るためなら、母はどんな敵とも戦うよ」

『いつも だれかが…』 ユッタ・パウワ作・絵 上田 真似而子

「うれしいときも かなしいときも いつも だれかが そばにいた。あぶないときには たすけてくれた…。」幸運だった一生を振り返る祖父と、その語りに耳をかたむける孫と、ふたりを「見守る存在」とを描いて、ヨーロッパを感動の渦にまきこんだ話題の本。一扉の言葉に紹介されています。「おじいちゃんは よく お話してくれる。」「ぼうや、わしは なにをしても うまくいったんだぞ…。」遠くの学校までの通学路。深い穴、怖いガチャウ、さみしいところ。いつもだれかが助けてくれた。「わしも だんだん 大きくなって、たのしいことばかりじゃ なくなってきた。」「わしは さまざまな しごとについて はたらいたよ。」「できそうにないことも とにかく やって見たんだ。」「そのうち、好きな人が できて… パパになって、」「そして、おまえのおじいちゃんになったんだよ。」「いろんなことが あったけど まあ、運がよかったな…。」

『しあわせってなあに？』 葉 祥明 絵・文

まず、イラストが美しい。どこかで一度は目にしたことがあると思いますよ。「ぼくは ひとりがすき ひとりしていると すぐきがらくで じゅうでいられるから これが ぼくのしあわせさ！」主人公の「ジェイク」は思います。でも、公園で出会うたくさんの友達に聞いてみたら…。「しあわせって なんだろう？」手に取ってみてくださいね！

